



株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2025年9月期第3四半期 決算説明資料

2025年8月6日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2025年9月期第3四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2025年9月期 業績予想
4. 中期経営計画“TY2027”の進捗
5. 株主還元について

1. 2025年9月期第3四半期 決算状況

2025年9月期第3四半期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	25,920	23,445	▲2,475	▲9.5%
営業利益	2,952	1,080	▲1,872	▲63.4%
営業利益率	11.4%	4.6%	▲6.8P	－
経常利益	3,080	1,227	▲1,853	▲60.1%
当期純利益	2,301	609	▲1,692	▲73.5%

✓ 売上高：前年同期比 9.5%減

- ・先進モビリティ事業は、下期に予定していた複数の海外大型案件の計上が来期となったことで、前年同期に比べて大幅に減少
- ・情報通信／情報セキュリティ事業、ソフトウェア開発支援事業が堅調な需要に支えられ増加

✓ 営業利益：前年同期比 63.4%減

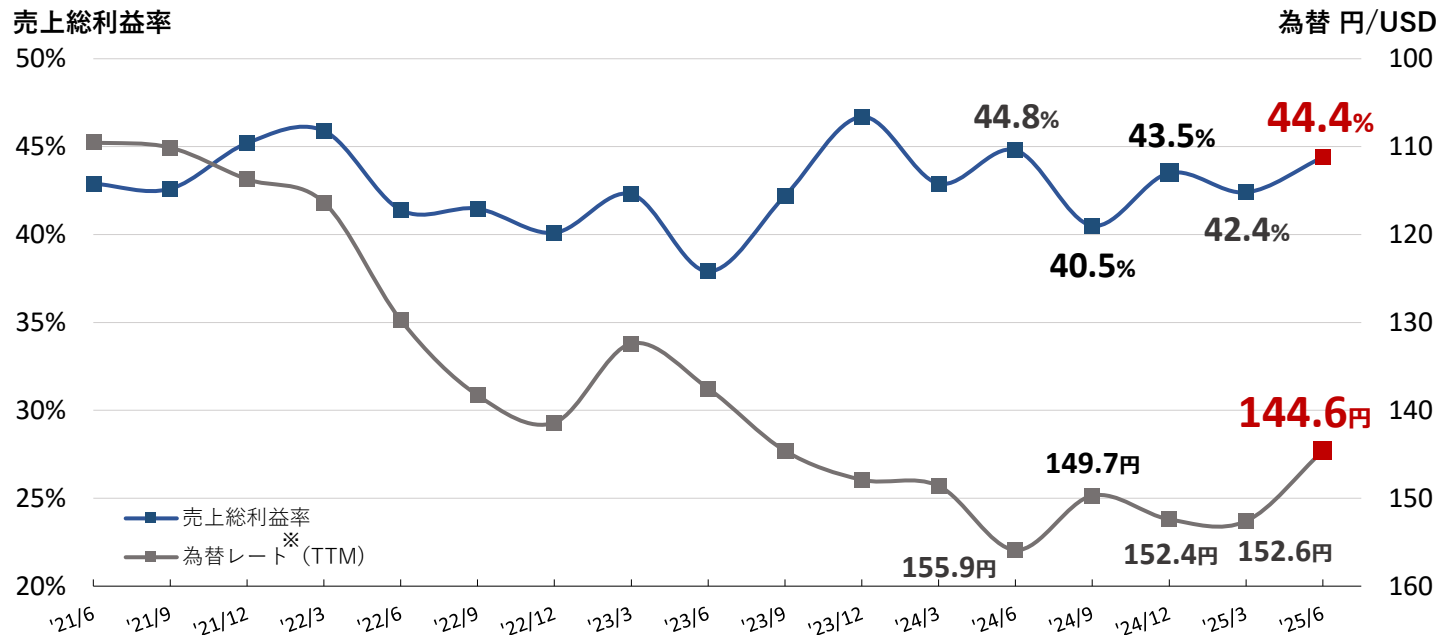
- ・減収影響に加え、売上総利益率の低下、研究開発費や人件費の増加などにより減少

✓ 当期純利益：前年同期比 73.5%減

- ・事業会社ごとの利益構成の変化によって、連結実効税率が法定実効税率より上昇

為替と売上総利益率の推移

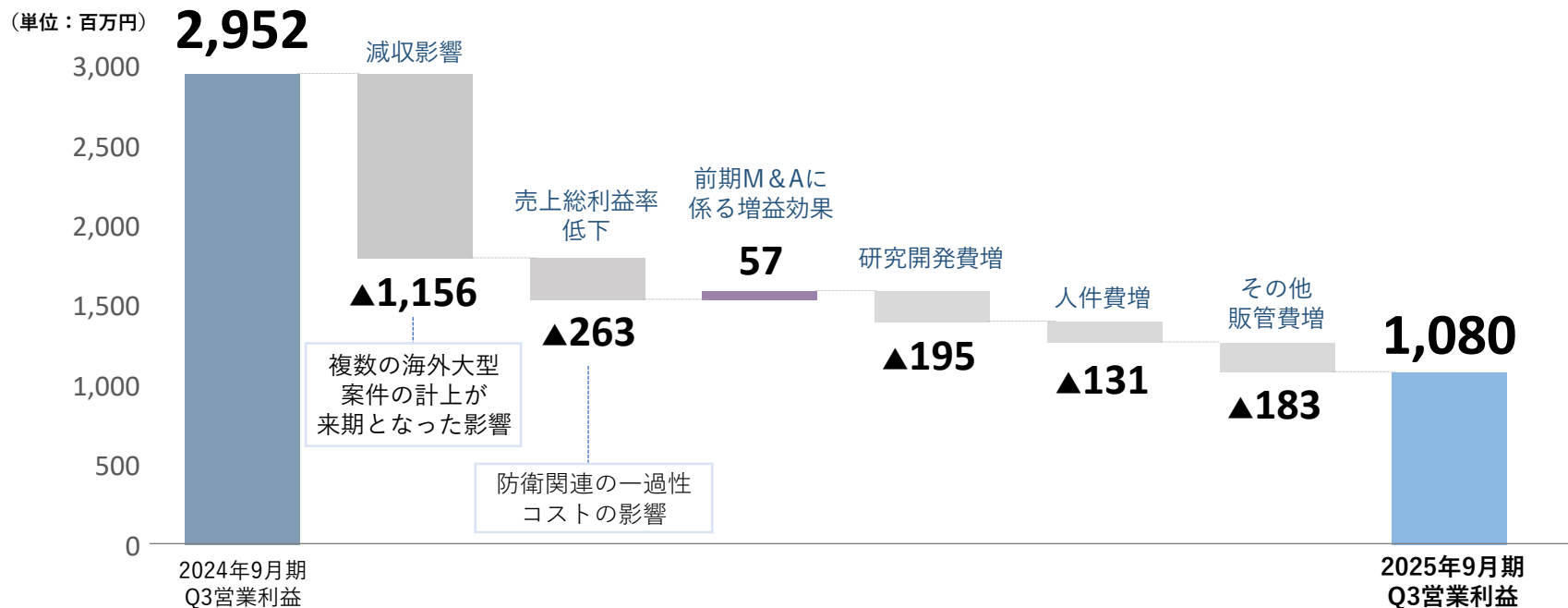
当第3四半期の売上総利益率は**44.4%**、第3四半期累計では**43.2%**（前年同期比▲1.1p）



※3ヶ月間ごとの平均レート

営業利益増減要因（対前年同期比）

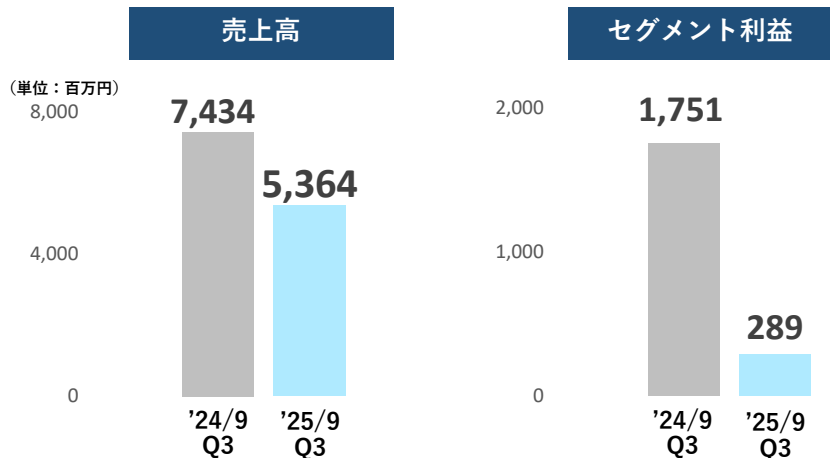
減収影響および売上総利益率の低下により減益



セグメント別 売上高／利益分析

先進モビリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	7,434	5,364	▲2,070	▲27.8%
セグメント利益	1,751	289	▲1,462	▲83.5%



事業概況

- 振動騒音計測関連が好調に推移したが、下期に予定していた複数の海外大型案件（納品済み）の売上計上が顧客の建屋および設備工事の遅れにより来期となったことで、売上高は大幅に減少
- 売上高の減少に加え、低利益率の大型案件があった影響などでセグメント利益も大幅に減少。上記の海外大型案件は来期の収益に大きく貢献する見込み

セグメント別 売上高／利益分析

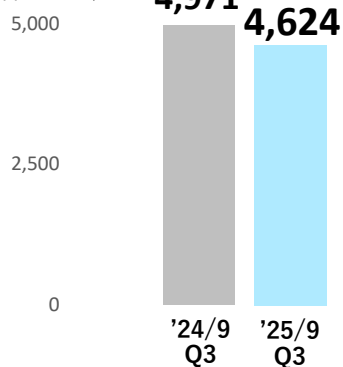
脱炭素／エネルギー

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	4,971	4,624	▲347	▲7.0%
セグメント利益	1,309	900	▲409	▲31.2%

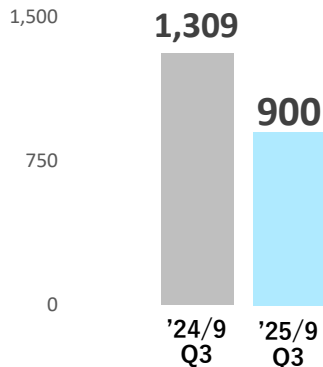


売上高

(単位：百万円)



セグメント利益



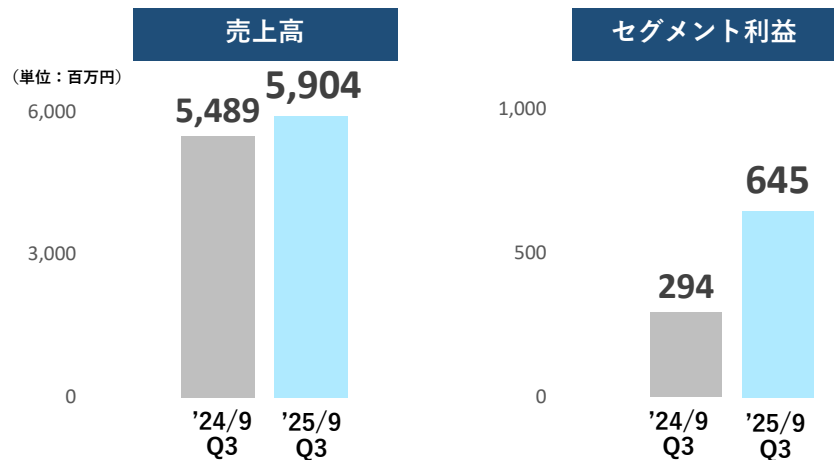
事業概況

- 低温測定・磁気測定分野が堅調だったほか、電気化学測定システムも期初計画を上回って推移し、売上高については好調だった前年同期に近い水準に
- セグメント利益は、さらなる需要拡大が期待される水素ビジネスへの投資などにより販管費が増加した影響で減少

セグメント別 売上高／利益分析

情報通信／情報セキュリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	5,489	5,904	+415	+7.6%
セグメント利益	294	645	+351	+119.5%



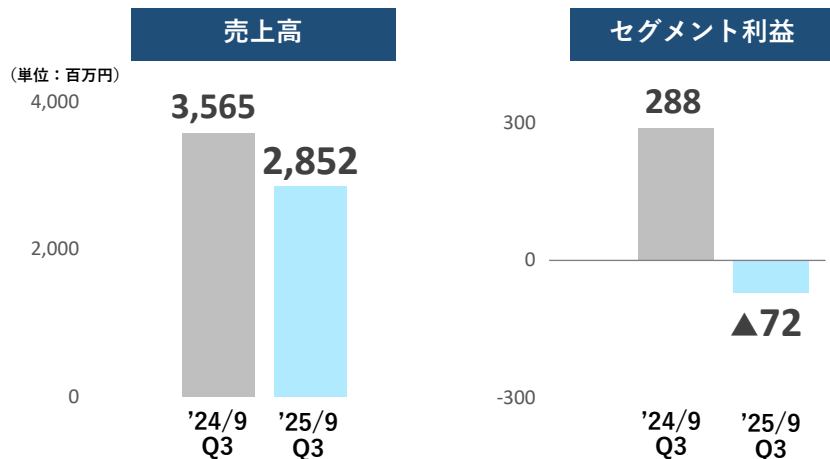
事業概況

- 情報通信分野では主力の大手通信事業者向けネットワーク性能試験製品が計画を上回って推移したほか、脆弱性スキャナや自社開発の大容量パケットキャプチャなどが前年同期に比べ伸長。サイバーセキュリティ分野では、サービスプロバイダー案件が堅調に推移
- 情報通信分野の人的リソースの最適化などによってセグメント利益は増加

セグメント別 売上高／利益分析

EMC／大型アンテナ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	3,565	2,852	▲713	▲20.0%
セグメント利益	288	▲72	▲360	— %



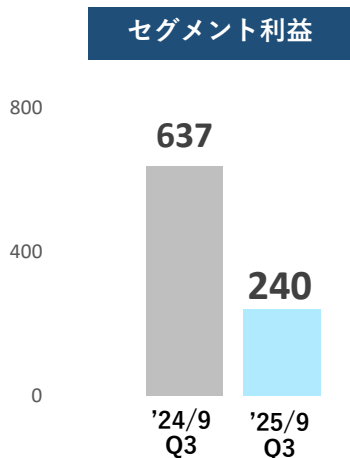
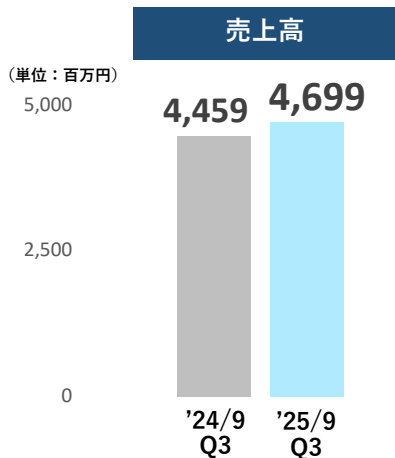
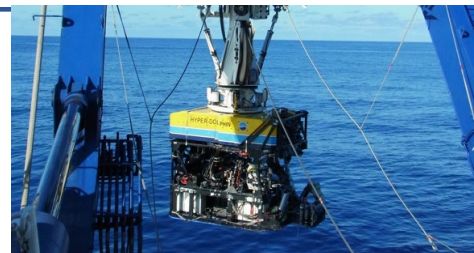
事業概況

- 期初の受注残高減少や、顧客都合による一部システム案件の納品・検収遅れにより前年同期に比べ売上高が減少
- 売上高の減少や新製品開発費の計上などにより、セグメント利益は赤字に

セグメント別 売上高／利益分析

その他事業（「海洋／防衛」「ソフトウェア開発支援」「その他」）

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	4,459	4,699	240	+5.4%
セグメント利益	637	240	▲397	▲62.3%



事業概況

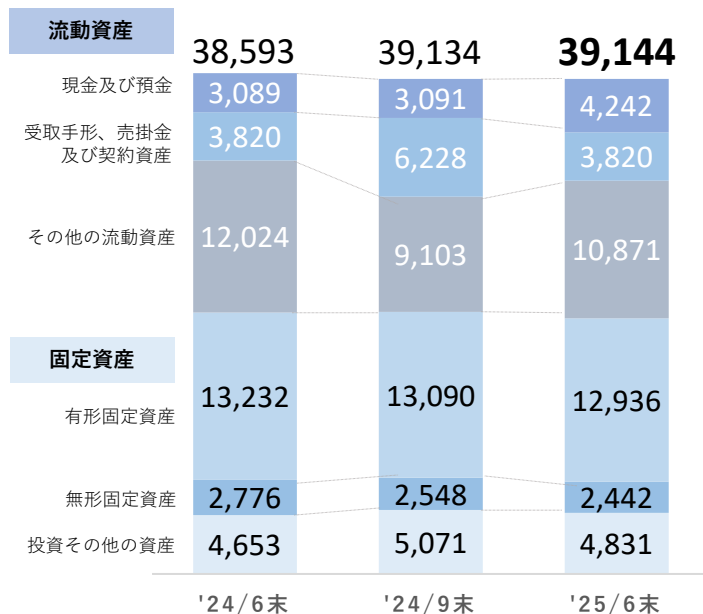
- 海洋／防衛事業では、赤外線カメラや水中通話機などが伸長したことにより、売上高は増加。一方で、受注した大型案件に係る一過性のコストを計上したことなどにより、セグメント利益は赤字に
- ソフトウェア開発支援事業では、ゲーム関連企業向けや車載関連企業向けが堅調に推移し、売上高は増加。新規事業拡大のための人員増による販管費の増加、低利益の大型案件や英国ポンド高の影響などにより、セグメント利益は減少

連結貸借対照表 主要項目

総資産

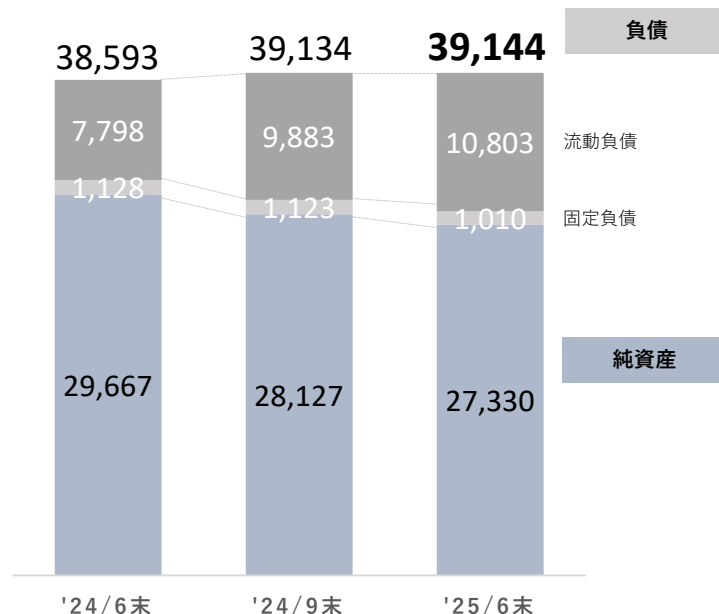
- 流動資産：「現金及び預金」「商品及び製品」「その他」が増加、「受取手形、売掛金及び契約資産」が減少
- 固定資産：「繰延税金資産」が減少

(単位：百万円)



負債・純資産

- 負債：「契約負債」「短期借入金」が増加、「賞与引当金」「未払法人税等」が減少
- 純資産：「利益剰余金」の減少



2. 受注高・受注残高

成長に向けた各施策は着実に推進できており、引き続き受注は好調に推移

✓ 受注高：過去最高となる313億37百万円

- ・複数の大型案件を受注した海洋／防衛事業が大きく伸長したのをはじめ、すべての事業において増加したことにより、前年同期を大幅に上回る

✓ 受注残高：前年同期比76億17百万円増

- ・第2四半期からさらに積み上げて高水準を維持

(単位：百万円)	2024年9月期 Q3実績	2025年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
受注高	24,599	31,337	+6,738	+27.4%
受注残高	17,307	24,924	+7,617	+44.0%

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'24/9 Q3実績	'25/9 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
先進モビリティ	受注高	6,772	7,200	+428	+6.3%	■ 自動車や航空宇宙・防衛分野の振動騒音計測関連製品の受注が引き続き好調だったほか、EV、FCV（燃料電池自動車）開発向けの受注も堅調に推移 ■ 顧客都合により売上計上が来期にずれた案件もあり、受注残高は前年同期に比べ高い水準を維持
	受注残高	5,069	6,655	+1,586	+31.3%	
脱炭素／エネルギー	受注高	4,141	4,546	+405	+9.8%	■ 引き続き水素関連が好調だったほか、電気化学関連も前年同期を上回って推移 ■ Q2では前年同期を下回っていた受注残高は前年同期比微増に改善
	受注残高	1,998	2,034	+36	+1.8%	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	5,834	6,353	+519	+8.9%	■ 情報通信分野ではネットワーク性能試験製品の受注が計画を上回って推移し、サイバーセキュリティ分野では大型案件を受注 ■ 受注残高は売上計上が進んだことでQ2より減少したものの、前年同期比では大幅増
	受注残高	3,406	4,184	+778	+22.8%	

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'24/9 Q3実績	'25/9 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
EMC／大型アンテナ	受注高	2,740	3,986	+1,246	+45.4%	■ 完成車や自動車部品メーカーの大型案件など、受注は計画どおり順調に推移
	受注残高	2,332	3,727	+1,395	+59.8%	■ 受注高の増加に加え、一部案件の売上計上が来期にずれたこともあり、受注残高が増加
その他事業	受注高	5,108	9,251	+4,143	+81.1%	■ 海洋／防衛事業は複数の大型案件を受注したことにより、受注高・受注残高ともに大幅に増加
	受注残高	4,501	8,322	+3,821	+84.9%	■ ソフトウェア開発支援事業も大型案件を受注し、受注高・受注残高ともに増加
	受注高	2,166	5,488	+3,322	+153.3%	
	受注残高	2,572	6,093	+3,521	+136.9%	

3. 2025年9月期 業績予想

複数の大型案件の売上計上が来期となったことなどから業績予想を修正

- ・下期に予定していた複数の海外大型案件の売上計上が顧客都合により来期となったこと、防衛関連の一過性コストの影響、連結実効税率が法定実効税率より高くなることなどを踏まえ、業績予想を見直し
- ・上記の海外大型案件の収益は来期業績に大きく貢献。事業は引き続き好調に推移

(単位：百万円)	2025年9月期 当初予想	2025年9月期 修正予想	増減金額	増減率	2024年9月期 実績
売上高	33,000	32,000	▲1,000	▲3.0%	35,042
営業利益	2,400	1,500	▲900	▲37.5%	3,366
営業利益率	7.3%	4.6%	▲2.7p	—	9.6%
経常利益	2,400	1,500	▲900	▲37.5%	3,375
当期純利益	1,750	800	▲950	▲54.3%	2,522

4. 中期経営計画“TY2027”の進捗

中期経営計画“TY2027”

各成長戦略を推し進めることで、2027年9月期に**売上高450億円（+ M&Aで500億円以上）**、**営業利益45億円**を目指す

■事業戦略

1. 注力すべき事業分野

- ・先進モビリティビジネス
- ・防衛ビジネス（→P21）
- ・脱炭素／エネルギービジネス（→P22）

2. 高付加価値の提供による差別化

- ・リカーリングビジネスのさらなる拡大
- ・自社開発製品の事業拡大

3. 海外事業の拡大

- ・海外売上を増加させるための拠点設置

4. 成長戦略を加速するM&A、新事業（→P23）

■財務・資本戦略

■サステナビリティ経営（→P24）

- ①技術革新への貢献
- ②環境保全の推進
- ③持続可能な経営基盤の確立

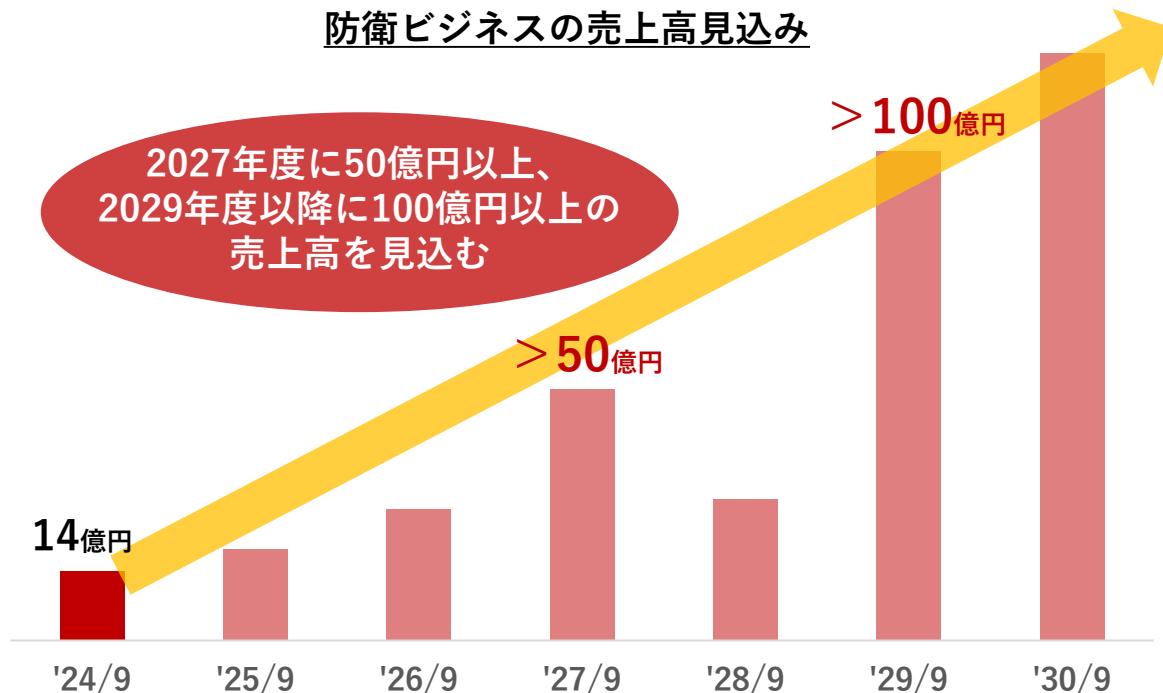
■経営指標

売上高 450億円（新規M&A合算で500億円以上）
営業利益 45億円
ROE 11%

今期に防衛大型案件を複数受注。今後も継続的な大型案件獲得が見込まれ、
当社業績に大きく貢献する成長事業へ

- ・海洋／防衛事業では、防衛予算の拡大に伴い、需要は好調。今期に防衛装備庁向けの大型案件を複数受注
- ・標準装備として継続的受注につながる案件もあり、将来の収益拡大に大きく貢献する見込み
- ・海自向けから、陸自、空自への販売を拡大中
- ・今後、EMC／大型アンテナ事業においても、防衛関連の大型案件（数十億円規模）獲得を目指す

防衛ビジネスの売上高見込み



燃料電池／水電解評価システムについて 仏・BioLogic社へのOEM提供を開始

- 自社製の燃料電池／水電解評価システムについて、電気化学測定システムや充放電装置の世界的メーカーであるフランスの**BioLogic社**※へのOEM提供を**2025年7月**に開始

- 昨年子会社化したエル・テール社の量産体制を強化。2025年7月より欧州、2026年には北米向けの販売を予定し、本システムのOEM供給で**2030年9月期**には**10億円の売上を目指す**

※ BioLogic Science Instruments SAS



燃料電池評価システム

参照URL：[東陽テクニカ製 燃料電池／水電解評価システムについて 仏・BioLogic 社への OEM 提供を開始](#)

BioLogic社製 電池充放電評価装置カテゴリーの中国全土での総代理店権を取得

- BioLogic社製の電池充放電評価装置カテゴリーの販売について、**2025年7月**より**中国全土における総代理店権**を取得

- 世界的な電池メーカーやEVメーカーの開発拠点多く存在する中国・華南エリアでの総代理店権を2024年1月に取得しており、そこでの実績が評価されたもの。車載電池開発向けなどの拡販により、**中国市場におけるシェア拡大**をはかる



モジュール式充放電測定システム一例

参照URL：[仏・BioLogic 社製 電池充放電評価装置カテゴリーについて 中国全土での総代理店権を取得](#)

フィンランド・IQM社と販売代理店契約を締結し、 量子コンピューター事業を開始

- 超伝導型量子コンピューター*分野の世界的リーディング企業「IQM Quantum Computers (IQM社)」の日本国内販売代理店となり、**量子コンピューター事業を開始**
- IQM社では現在普及しているクラウドサービスだけでなく、**世界最先端レベルの先進モデルから1台当たり約2億円の低価格帯入門モデルまでをオンプレミスで提供**
- 入門モデルの販売により国内での教育・研究環境の整備を促進。セキュリティ性などに優れるオンプレミス型の量子コンピューターは国内市場でのニーズの高まりが予想され、**量子技術の社会実装に貢献**
- IQM社の協力を得ながら人材の育成、ノウハウの蓄積を推進し、**国内市場での競争優位性を確保して事業拡大**をはかる。また、量子コンピューターとの親和性が高い**既存事業において、製品・サービスの価値向上**にもつなげていく

* 量子コンピューター：量子力学の原理を利用して高度な計算処理を行う次世代コンピューターで、材料開発、自動運転開発、量子暗号通信、防衛、創薬、環境工学など、従来のコンピュータでは難しい複雑で膨大な計算の処理能力を備える



拡張性も備えた先進モデルの大規模
量子コンピューター



教育・研究用途に最適な入門
モデルの量子コンピューター

「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初選定

- グローバル インデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために設計された「**FTSE Blossom Japan Index**」に初選定
- 「**FTSE Blossom Japan Sector Relative Index**」については3年連続の選定。それぞれサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用され、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)も採用しているESG指数
- 今回の選定は、気候変動への対応や責任ある調達の推進など、サステナビリティに関する取り組みを強化するとともに、ESG関連情報の積極的な開示といった継続的な取り組みが評価されたもの。今後も**サステナビリティ経営を一層推進**していく



FTSE Blossom
Japan

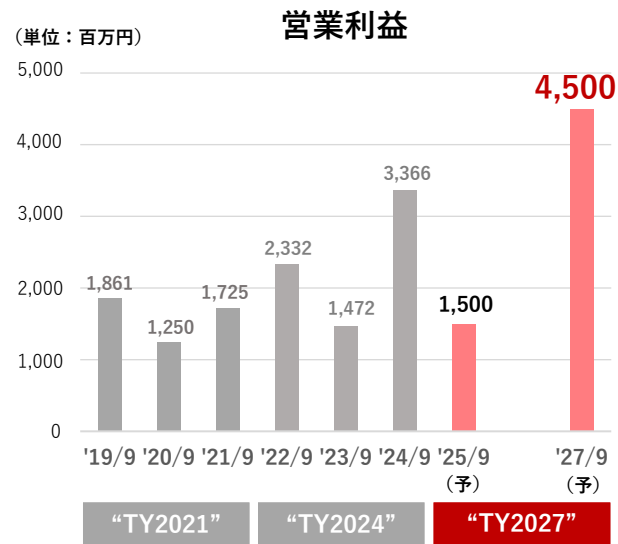
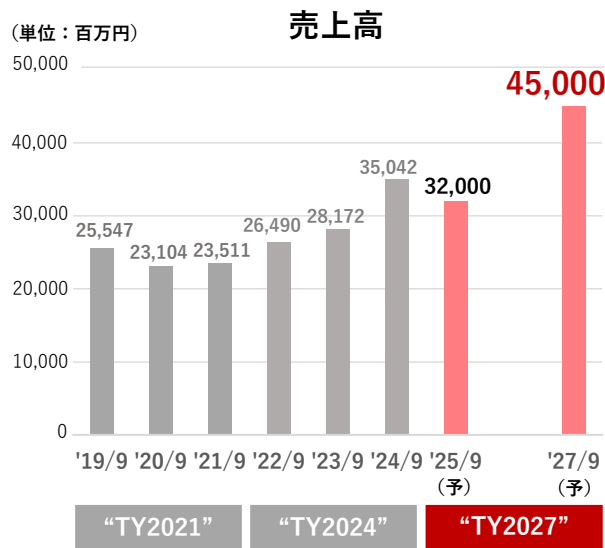


FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

参照URL：[東陽テクニカ、ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初選定](#)

“TY2027” 業績の進捗

今期は減収減益となるものの、受注は好調に推移しており、**受注高は前期を大幅に上回る**見込み。さらなる受注拡大で“TY2027”の経営指標達成を目指す



5. 株主還元について

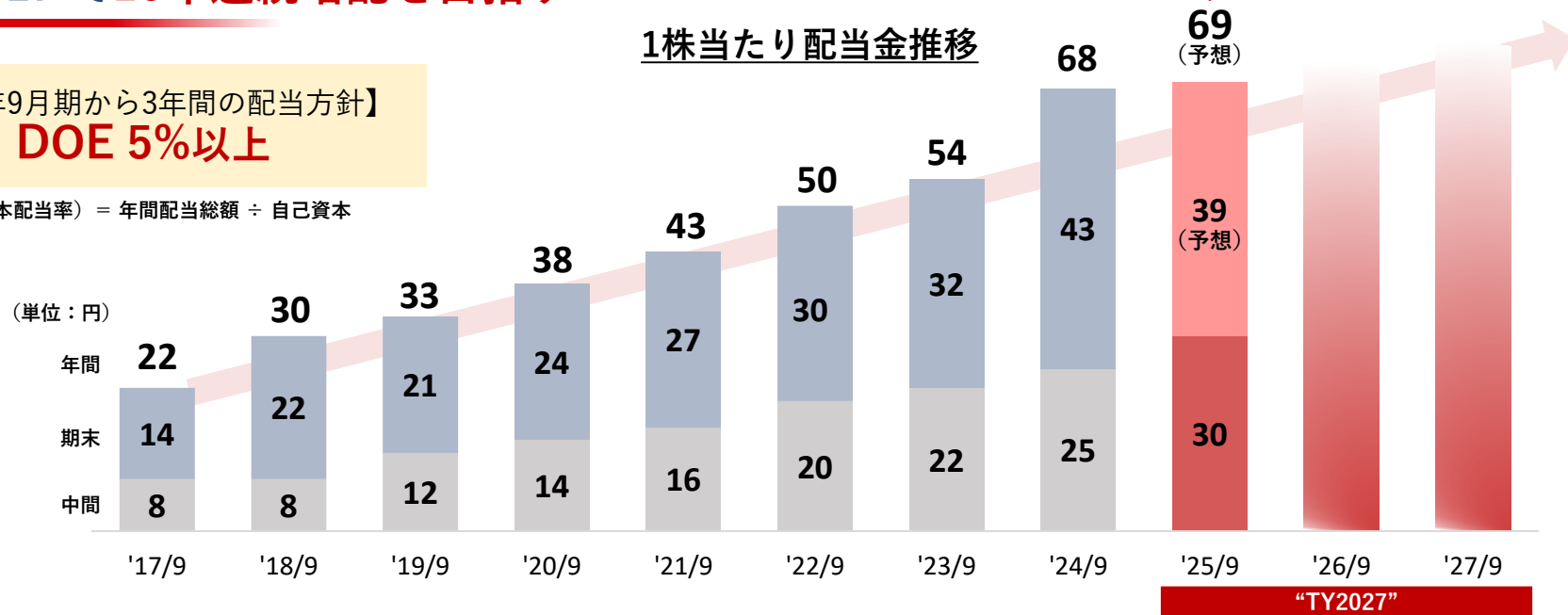
株主還元について

配当予想は変更なし、今期の配当は過去最高額となる見通し
“TY2027”で10年連続増配を目指す

【2025年9月期から3年間の配当方針】

DOE 5%以上

※DOE（自己資本配当率）＝ 年間配当総額 ÷ 自己資本



・ 自己株式の取得は今後も成長投資とのバランスを見ながら適宜検討

IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/ir/>
<https://www.toyo.co.jp/ir/library/document/>

決算説明会の書き起こしを
ご覧いただけます

2024年9月期 決算ハイライト

項目	2024年9月期	2023年9月期	2022年9月期
売上高	280.0	265.0	245.0
営業利益	18.0	15.0	12.0
経常利益	15.0	12.0	10.0
純利益	12.0	10.0	8.0
EPS	120.0	100.0	80.0

※ 上記は約数であり、小数点第2位を四捨五入しております。

※ 本資料は、IRサイトのIR情報として、IRサイトのIR情報として公開しております。

※ 本資料は、IRサイトのIR情報として、IRサイトのIR情報として公開しております。

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp

“はかる”技術で未来を創る
 **東陽テクニカ**